

地上テレビジョン放送局 安全・信頼性向上のための取組み状況

平成22年12月27日

日本テレビ放送網株式会社

林 直樹

地上デジタルテレビジョン放送ネットワーク(イメージ図)



安全・信頼性向上の取組み

- 演奏所(マスター設備)・送信所(親局)は、最重要設備として位置づけ、十分な安全・信頼性を確保している。
- 周波数使用計画に基づいて置局した中継局については、アナログ放送時代から着実に措置してきており、デジタル化を機にさらに向上を図った。
- デジタル放送用として新たに設備構築するにあたり、NHK・民放連制定のガイドラインに沿い、各放送事業者が自主的に安全・信頼性向上に取り組んでいる。

設備分類別実施状況

	項目	マスター	送信所	中継局	具体的措置
1	防護措置	○	○	△	施錠、フェンス、空調設備 換気設備
2	耐震措置	○	○	○	転倒防止用固定 可とう性線材による接続
3	耐雷措置	○	○	○	避雷装置、耐雷トランス アレスタ
4	防火措置	○	○	△	火災報知設備、消火器 自動消火装置
5	監視・故障検出	○	○	△	有人監視、監視装置

△:一部実施

設備分類別実施状況

	項目	マスター	送信所	中継局	具体的措置
6	予備設備	○	○	△	装置の二重化 交換部品の配備
7	試験機器の配備	○	○	△	点検機器の配備 特性測定装置の配備
8	停電対策	○	○	△	自家用発電機 バッテリー電源装置
9	電源設備	○	○	△	予備電源の配備 防護・耐震・耐雷措置

△:一部実施

中継局における措置

- 中継局は、送信規模により大規模局、小規模局、ミニサテ局に分類しており、規模に応じてシステム構成が異なっている。
- 各中継局のサービス世帯数、立地条件、出向条件、周囲環境等により、措置内容は違ってくる。
- 各放送事業者の判断基準により、重要局については十分な措置を講じている。重要局の判断は、サービス世帯数や下位局の数等、各放送事業者の独自の判断基準による。

技術的条件検討にあたっての留意点

- 技術的条件の検討にあたっては、適用範囲を明確にし、措置の具体性・実現性も考慮すべきである。
- 関連法令との二重規定とならないよう留意すべきである。
- 実現性を高めるためにも、具体的措置内容にはある程度の自由度を持たせるべきである。